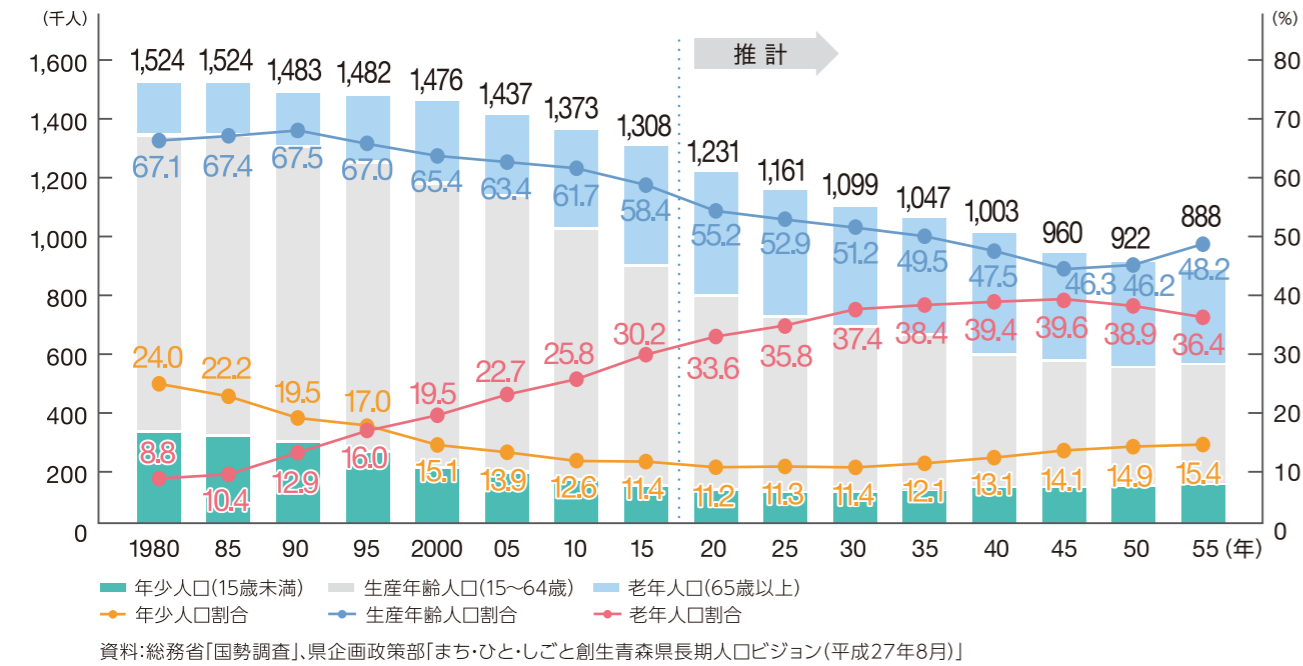


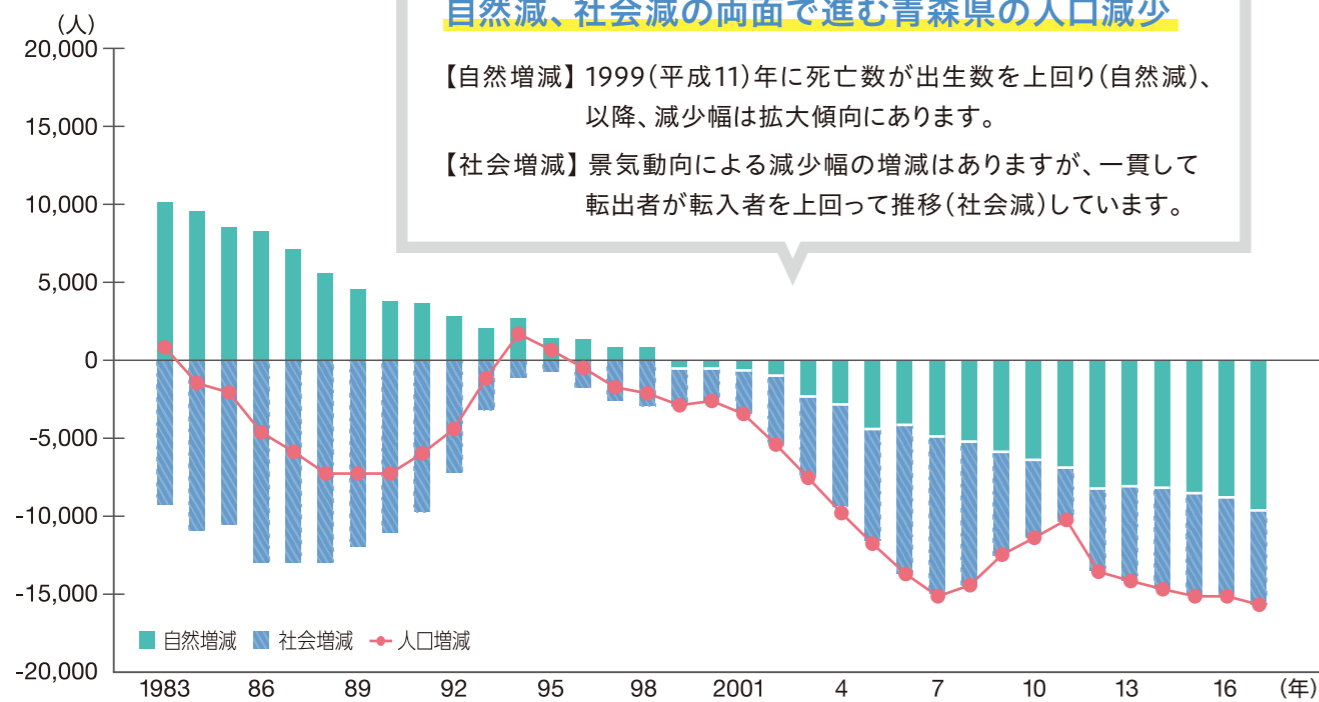
青森県の人口の推移

本県の人口は今後も減少傾向が続くものと見込まれます。年齢3区分別に見ると、老年人口(65歳以上)は2025年まで増加しますが、その後減少に転じ、年少人口(15歳未満)は2030年以降、生産年齢人口(15~64歳)は2050年以降に増加に転じるものと見込まれます。

年齢3区分別人口・人口構成割合の推移と将来推計(青森県)



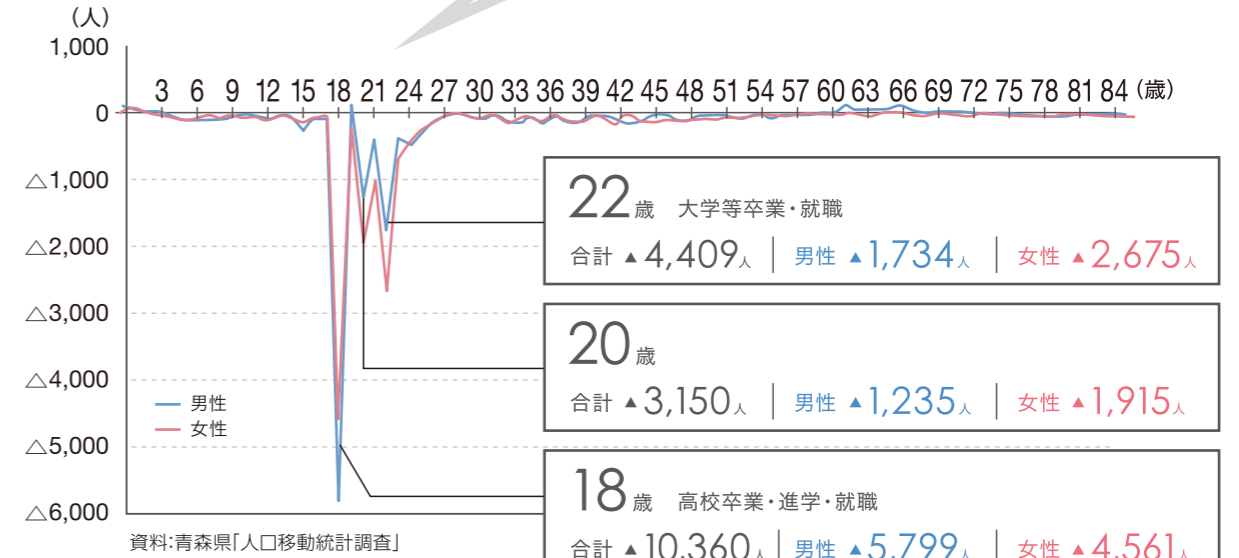
人口動態の推移(青森県)



大きな課題は「若者の県外流出」

男女とも、18歳、20歳、22歳で大幅な転出超過となっており、高等学校や大学などの卒業に伴う転出の影響が考えられます。

年齢別社会増減数(2010年10月~2015年9月、青森県)



総人口の将来展望

「青森県長期人口ビジョン」では、自然減対策と社会減対策を一体的に進め、右の仮定を実現した場合、本県の総人口は、2080年以降、約80万人で安定し、持続可能で安定した人口構造への転換を図ることができると推計しています。

仮定

合計特殊出生率

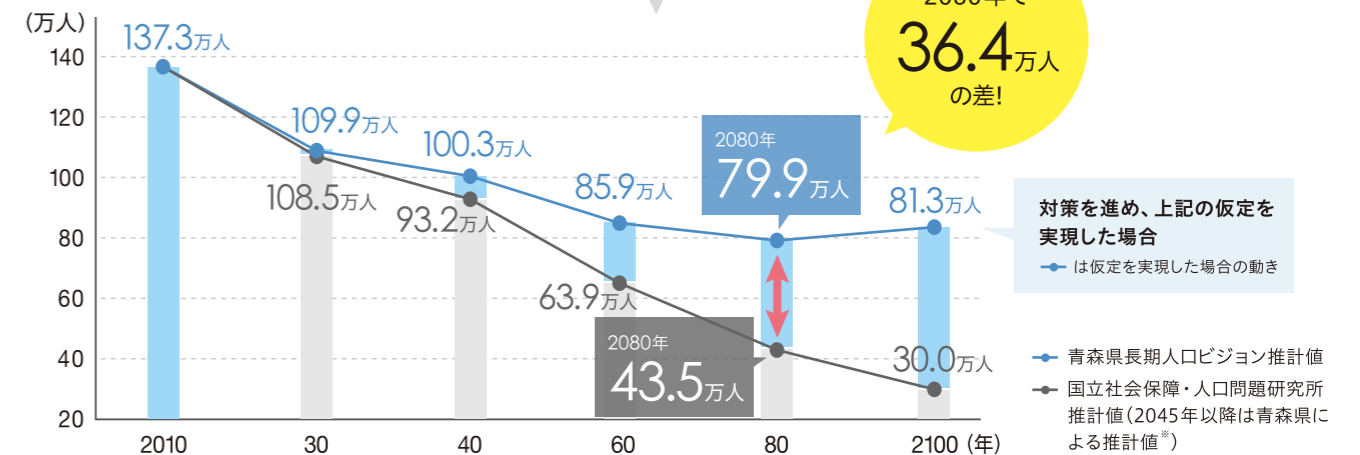
2040年
↑ 2.07へ
2030年に1.8

平均寿命

2040年に
全国平均

社会減

2020年以降
減少幅縮小
2040年に
移動均衡



※2045年以降の国立社会保障・人口問題研究所の推計値は、同研究所の推計仮定に基づき、出生率は1.35で一定、純移転率は2020年まで逓減し、その後一定という仮定で、青森県において推計しました。